

# 予防接種について 《水痘》

## 金沢市の乳幼児期に受ける定期予防接種

(2020年10月1日現在)

乳幼児期の予防接種		受ける時期と接種回数	ワクチン種別
ロタウイルス	ロタリックス	出生6週0日後から24週0日後まで(初回接種)については、標準として生後2か月から出生14週6日後まで)に27日以上の間隔を置いて2回経口投与	生ワクチン(経口)
	ロタテック	出生6週0日後から32週0日後まで(初回接種)については、標準として生後2か月から出生14週6日後まで)に27日以上の間隔を置いて3回経口投与	
Hib (インフルエンザ菌b型)	初回	【標準的な接種パターン】 生後2か月～7か月の前日までに接種開始の場合 初回: 27日(医師が認める場合は20日)以上(標準として27日～56日)の間隔をあけて3回接種(生後12か月の前日までに完了) 追加: 初回3回終了後、7か月以上(標準として7か月～13か月)あけて1回接種(注)	不活化ワクチン
	追加	【標準的な接種パターン以外の場合】 ①生後7か月～1歳の誕生日の前日までに接種開始の場合 初回: 27日(医師が認める場合は20日)以上(標準として27日～56日)の間隔をあけて2回接種(生後12か月の前日までに完了) 追加: 初回2回終了後、7か月以上(標準として7か月～13か月)あけて1回接種(注) ②1歳の誕生日～5歳の誕生日の前日までに接種開始の場合: 1回接種	
小児用肺炎球菌	初回	【標準的な接種パターン】 生後2か月～7か月の前日までに接種開始の場合 初回: 27日以上の間隔をあけて3回接種(生後24か月(標準として生後12か月の前日までに完了) 追加: 初回3回終了後60日以上の間隔をあけて、生後12か月以降に(生後12か月～15か月の前日までを標準的接種期間として)1回接種(注)	不活化ワクチン
	追加	【標準的な接種パターン以外の場合】 ①生後7か月～1歳の誕生日の前日までに接種開始の場合 初回: 27日以上の間隔をあけて2回接種(生後24か月(標準として生後12か月の前日までに完了) 追加: 初回2回終了後60日以上の間隔をあけて、生後12か月以降に1回接種(注) ②1歳の誕生日～2歳の誕生日の前日までに接種開始の場合 60日以上の間隔をあけて2回接種 ③2歳の誕生日～5歳の誕生日の前日までに接種開始の場合: 1回接種	
B型肝炎		1歳の誕生日の前日までに(標準として生後2か月～9か月になるまでに)27日以上の間隔を置いて2回接種した後、1回目の接種から139日以上の間隔を置いて1回接種	不活化ワクチン
ジフテリア 百日せき 不活化ポリオ 破傷風 (DPT-IPV)	1期初回	生後3か月～90か月(7歳6か月)の前日までに 初回: 20日以上(標準として20日～56日)の間隔をあけて3回接種	不活化ワクチン
	1期追加	追加: 1期初回(3回)終了後、6か月以上(標準として1年～1年半)あけて1回接種	
BCG		1歳の誕生日の前日までに(標準として生後5か月～8か月になるまでに)1回接種	生ワクチン
麻しん 風しん (MR)	1期	生後12か月～24か月(2歳の誕生日の前日)までに1回接種	生ワクチン
	2期	小学校就学前1年間(幼稚園等の年長さん相当の年齢)にある間に1回接種 ※別途個別に通知します。	
水痘		生後12か月～36か月(3歳の誕生日の前日)までに3か月以上(標準として6か月から12か月まで)の間隔をあけて2回接種 ※1回目の標準的な期間は、生後12か月から生後15か月になるまでです。	生ワクチン
日本脳炎	1期初回	生後36か月(3歳 <sup>※</sup> )～90か月(7歳6か月)の前日までに ※標準的な接種開始時期は3歳です。生後6か月から接種可能です。	不活化ワクチン
	1期追加	初回: 6日以上(標準として6日～28日)の間隔をあけて2回接種 追加: 1期初回(2回)終了後、6か月以上(標準としておおむね1年)あけて1回接種	

(注) Hibワクチンおよび小児用肺炎球菌ワクチンは、接種開始年齢等によって接種回数が異なります。接種回数、間隔などは接種医とよくご相談ください。その他、任意予防接種として、おたふくかぜ、インフルエンザなどがあります。

周知方法 個別通知 接種場所 予防接種協力医療機関 接種時期 通年

### ◆他の予防接種との接種間隔(別の種類の接種を行うまでの期間)◆

注射生ワクチンを接種した場合: 次回別の種類の注射生ワクチンを接種する場合は、接種した日の翌日から起算して、27日以上あけます。

## 水痘(水ぼうそう)とは?

水痘・帯状疱疹ウイルスによって引き起こされる急性の感染症です。空気感染、飛沫感染、接触感染によって感染し、最も感染力の強い感染症のひとつです。その潜伏期は感染から2週間程度(10～21日)です。特徴的な発疹が主な症状で、かゆみを伴います。発熱を伴うこともあります。発疹は、最初は紅斑(皮膚の表面が赤くなること)から始まり水疱(水ぶくれ)を経て痂皮化(かさぶたになること)して治ります。発疹はお腹や背中、顔などに多い傾向がありますが、頭部など髪の毛に覆われた部分にも現れます。通常1週間程度で自然に治癒しますが、まれに脳炎や肺炎、肝機能の異常を伴うことがあります。また、皮膚から細菌が感染して化膿したりすりこことはまれではなく、敗血症などの重症の細菌感染症を合併することもあります。ハイリスク患者(急性白血病などの悪性腫瘍の患者さんや、治療によって免疫機能が低下している人及びそのおそれのある人)では特に重症となります。

## 水痘(水ぼうそう)ワクチン

水痘・帯状疱疹ウイルスを弱毒化してつくった生ワクチンです。このワクチンを受けた者のうち、約20%は、後に水痘にかかることがあります。もしかかっても軽くすむといわれています。

**生後12か月～36か月(3歳の誕生日の前日)までに、3か月以上の間隔をあげて2回接種**します。

標準的には生後12か月～生後15か月に至るまでに1回目の接種を行い、1回目の接種後3か月以上(標準として6か月～12か月まで)の間隔を置いて2回目の接種を行います。

**\* 水痘にかかったことのあるお子さんは、定期予防接種の対象とはなりません。**

## 水痘(水ぼうそう)ワクチンの副反応

副反応はほとんど認められませんが、時に発熱、発疹、局所の発赤、腫脹(はれ)、硬結(しこり)がみられます。まれに報告される重い副反応としては、アナフィラキシー様症状、急性血小板減少性紫斑病等があります。